

2024年9月25日

日本心理劇学会第30回大会のご案内【第2号通信】

日本心理劇学会 第30回大会

共立女子大学

2025年1月11(土)・12日(日)

大会テーマ「心理劇の成熟と新しい展望」

【ご挨拶】

第1号通信では、第30回大会の隠れたテーマは「舞台」であるとお伝えしました。実は本学の6号館には、日本心理劇学会で長く常任理事をお務めになった武藤安子先生が、本学に児童学科を創設なさるときにお作りになった心理劇専用の舞台があります。本学会で前の期に常任理事を務められていた小原敏郎先生や、本大会の運営委員を務めておられる木村秀先生をはじめとする、本学家政学部児童学科の先生方の御厚意で、大会初日の開会式前に、プレ行事として、舞台の見学時間を設けることができました。御都合のつく方はスケジュールを調整して、早めにおいでいただき、ぜひご覧になってください。

若い会員の方々のなかには、心理劇の舞台を見たことがない方もおられるかと思います。ギリシャ神話では、チャンスの神様には前髪しかないため、その前髪を掴みそこねると、どんなに後悔しても後になって好機を捉えることは難しいといわれています。ご承知のように、サイコドラマの黎明期には、3段の同心円状の木造の舞台で劇を演じることが重視されましたが、現在では、そのような装置を用いることは、絶対条件ではないと考えられています。私自身も監督として様々な場所で心理劇を行っており、心理劇専用の舞台がないことに不自由さを感じることはありません。しかしながら、実際に同心円状の舞台の上に立つと、この舞台がグループをサープラス・リアリティの世界にいざなううえで、優れた装置であることを感じます。見学の際には安全・安心に配慮しつつ、モレノの舞台に関する構想に想いを馳せていただくと有難いです。

話は変わりますが、第2号通信は全19ページで構成されております。本学会のある会員の方が「これを読むだけで学会に行った気分になるね」と言ってくださったので、第2号通信も本大会のプレ行事のひとつとして捉えさせていただきたいと思っております。郵送の場合には大量の文書を入れることは困難ですが、本大会ではメール送信を基本とさせていただきますので、講師やシンポジストの方々にご協力をお願いして、コメントを記していただきました。発表者の方々の発表要旨も掲載しました。ぜひお読みください。この通信は大会ホームページにも貼り付けましたので、万が一にもデータを紛失した場合には、ダウンロードしていただけます。

最後になりますが、第30回大会の円滑な運営のために、ご協力いただいているすべての方々に、心からの感謝を捧げます。オンライン上で大会発表の申し込みが始まった当初は、申し込みが少なく心配しました。いつも適切な助言をくださる横山太範理事長に相談すると、「〆切前に提出する人が多いから大丈夫だよ」とのご助言をいただきました。けれどもそれでも心配で、何名かの方に発表の打診をいたしました。すると「もともと発表の予定だった」「前向きに検討したい」というご返事を即座にいただき、本学会の底力を感じました。最終的には全部で18件の発表申請をいただき、安堵しております(口頭発表：9件。ワークショップ発表：9件)。お忙しい時間を割いて発表の構想を練ったうえで、申し込みをしてくださったベテランの先生方には、ありったけの敬愛の気持ちを送ります。試行錯誤しつつ研究を推進し、勇気をもって発表申請をしてくださった若い先生方には、最大限のエールを送ります。すべての発表会場がいっぱいになるように、多くの会員の皆さまの早い段階での参加予約をどうぞよろしくお願いいたします。

日本心理劇学会第30回大会大会長
安藤嘉奈子

1 プログラム

	1月11日(土)	1月12日(日)
	受付開始 11:00	当日受付開始 9:30
10:00		大会長講演 10:00~11:00 共立講堂
11:00	プレ行事 舞台見学 10:30~11:50 3号館607号室	総会 11:10~12:10 共立講堂
12:00	開会式 12:00~12:10	ブレイクタイム 12:10~13:00
13:00	学会企画 ワークショップ 12:20~14:20 2号館・3号館	特別講演 13:00~14:00 共立講堂
14:00		
15:00	口頭発表 14:30~15:45 2号館	シンポジウム 第I部・第II部 14:10~16:30 共立講堂
16:00		
17:00	ワークショップ発表 15:55~18:15 2号館	表彰式・閉会式 16:40~17:10
18:00		<p><留意事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ○事前に参加手続きをなさった方には、参加証を郵送しますので、当日、受付を行う必要はありません。 ○事前に参加手続きをなさった方が、舞台見学を希望する場合は、参加証を身につけて、直接3号館へおいでください。 ○2号館から3号館まで移動するには、10~15分程度かかりますので、ご注意ください。
19:00	懇親会 18:30~20:00 2号館2階 ラシュレ	
20:00		

1) プレ行事(10:30~11:50) 舞台見学

- ◇共立女子大学の3号館6Fの保育実習室で、心理劇の舞台の見学を行います。安全・安心に気をつけて自由にご見学ください。
- ◇第30回大会の参加手続きをなさった方ならば、どなたでも見学可能です。
- ◇事前に参加申し込みをなさった方は、参加章の入ったネームホルダーを身につけて、直接会場にお越しください。
- ◇当日、参加申し込みをなさる方は、2号館にある大会受付で登録を済ましてから、ネームホルダーを身につけて会場にお越しください。

2) 開会式(12:00~12:10)

- ◇本学会は1995年に設立されております。学会大会が30回も継続したことを祝うための開会式です。ぜひご参加ください。

3) 学会企画ワークショップ(12:20~14:20)

ワークショップI

◇演題

サイコドラマをゆっくり味わう
—リフレクティングチームを用いたサイコドラマの体験—

◇講師

佐藤豊(防衛医科大学校)

◇講師からのコメント

主役が語るさまざまな断片的な語りや象徴を舞台上で具象化し、いかに洞察と統合に繋げていくか。監督の臨床感覚が問われる「統合化」の技術を、どのようにトレーニングしていくかについて、この数年試行錯誤を繰り返してきました。その中で、トム・アンデルセンのリフレクティング・プロセスのアイデアに出会いました。

監督の介入技術に関する新しいトレーニング技法が生み出されましたが、思わぬ副産物もありました。それが、リフレクティングを用いたサイコドラマです。今回のワークショップでは、リフレクティングを用いたサイコドラマを紹介します。

舞台の外部にリフレクティングチームを配して、サイコドラマが行われます。この構造によって生み出されるのは、主役に焦点を当てながらも、監督主導ではなくゆっくりとしたペースで参加者とともに作り上げるサイコドラマの体験です。古典的なサイコドラマと増野式サイコドラマが融合したような、新しいサイコド

ラマの体験です。当日は解説と実践の両方に時間を割り当てる予定なので、サイコドラマ初心者の方の参加も大歓迎です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

ワークショップⅡ

◇演題

ロール・プレイングについて考えてみよう

◇講師

日本心理劇学会・生徒指導提要ワーキングチーム（時田学〔日本大学〕・高橋秀和〔アウェアネス & グロースアプローチ研究所〕・義永睦子〔武蔵野大学〕・安藤嘉奈子〔共立女子大学〕・岩城衆子〔文京区児童相談所開設準備室〕）

◇講師からのコメント

今回の研修会に参加される皆様は、ロール・プレイングとお聞きになってどのようなことをイメージされるのでしょうか？

今回のワークショップでは、自分自身や相手について、考え・感じることをロール・プレイングの体験を通して具体的に考えを重ね、私たち自身や相手のことについて、具体性を持った理解につなげるといった部分を大切にロール・プレイングのイメージを広げたいと考えます。また、主に学校教育の中で具体的に行われているロール・プレイングについて、現在の、学校教育の巻く状況の変化についても皆さんと情報共有させていただきながら多面的な視点から考えてみたいと存じます。

短い時間ではありますが、皆さんと時間を共有しロール・プレイング体験を通じて考えていただければ幸甚に存じます。

ワークショップⅢ

◇演題

心理劇における空間

—三段舞台のある空間を活かして—

◇講師

土屋明美（日本心理劇協会）・宮川萬寿美（日本心理劇協会）・中村忍（日本心理劇協会）

◇講師からのコメント

「ここは舞台」と、参加者がある空間を共有することから心理劇は始まります。本ワークショップでは、現実の人間関係について舞台の勾配関係を活用し、そこから浮かび上がる諸課題を明らかにして、解決可能性にアプローチします。

ウォーミングアップでは、3段舞台、段差、バルコニー、鏡を意識しながら動き、それらの体験を共有する予定です。高低差、平面移動や空間を眺望することにより何が生まれるか、楽しみです。関係理論に基づく心理劇では「人間は関係的存在である（松村康平 1960）」とする基本に基づき、課題を展開するに当たっては、個人を困っている特定の人のというとらえ方はしません。「困っている関係状況」があり、その状況にどのように関わるかを探索します。一人ひとりが「関係状況の担い手」であり、かけがえのない存在であると確認し（肯定性の原理）、「共に育つ心理劇」「平和のための心理劇」を目指します。

「今・ここで・新しく」心理劇の展望を開きましょう。

3) 口頭発表 (14:30~15:45)

発表番号 (例えば「口頭発表 I」) のあとにつけられたアスタリスクは、発表者が、オンリーワン賞を希望していることを意味しています。

口頭発表 I *

◇発表者

井上清子 (増野式サイコドラマ研究会)

◇演題

増野式「トーク&シェア」の効果と留意点
—学生への実施と質問紙調査から—

◇発表要旨

サイコドラマのウォーミングアップとして開発された「トーク&シェア」(増野 2024) は、その効果と留意点についてはまだ十分に検証されていない。本研究では、大学および専門学校の4月の第1回授業において、無作為に分けた10名前後のグループごとに、「トーク&シェア」(1周目は今話したいことを、2周目は他の人の話に対して共感したり関連する自分自身のことを話す)を実施した。研究と倫理的配慮について文書および口頭にて説明し、同意が得られた学生103名を対象として、「トーク&シェア」開始前・1周後・2周後に、POMS2日本語版成人検査短縮版(横山 2015)とウォーミングアップ体験尺度(本間・茨木 2008)を、2周後に「シェア」の長所と短所を問う質問紙調査を行った。その結果から、参加者の気分やウォーミングアップの、1周後・2周後の変化と、2周目を「シェア」にする効果と留意点についても考察する。

口頭発表 II

◇演題

ウクライナ避難民への「増野式サイコドラマ」の実践報告
—みんなで“ドラマ”小さな子どもと多世代の女性のために—

◇発表者

○都甲絢子(増野式サイコドラマ研究会)・河島京美(増野式サイコドラマ研究会)

◇発表内容

2022年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻により、ウクライナから日本に避難する人数は累計2000人を超える(出入国在留管理庁、2024)。横浜市国際交流協会(以下、YOKE)は、横浜市の委託を受け、ウクライナ避難民(以下、避難民)に「ウクライナ交流カフェ」と「ウクライナ避難民支援相談窓口」を運営している。筆者らはYOKEの依頼を受け、子どもを持つ多世代の女性を対象に「増野式サイコドラマ(以下、増野式)」を各回2時間半、計5回行った。避難民のニーズ踏まえ、タイトルを「みんなで“ドラマ”小さな子どもと多世代の女性のために」とし、参加者の子どもたちは別室で青少年育成団体らがアクティビティを実施し、同時進行で参加者に「増野式」を行った。「増野式」は参加者のポジティブな側面に光を当てることを特徴としているが、それらが参加者にどのような効果があったのか、実践報告を踏まえ検証を行う。

引用文献

出入国在留管理庁(2024). ウクライナ避難民に関する情報 Retrieved from July, 31, 2024, from https://www.moj.go.jp/isa/support/fresc/01_00234.html

口頭発表Ⅲ*

◇演題

地域活動支援センターのプログラムにおける増野式サイコドラマの有効性

◇発表者

○河島京美（増野式サイコドラマ研究会）・都甲絢子（増野式サイコドラマ研究会）

◇発表要旨

2018年度の第24回、2022年度の第28回に練馬区にある地域活動支援センター『石神井障害者地域生活支援センターういんぐ』において増野肇（1933-）が考案した「増野式サイコドラマ」をプログラムに導入した効果を発表した。2018年度は参加者のヒアリング調査から、当事者主体のサイコドラマが自発的に行なわれ、参加者は自信や達成感を持つことができ、自己効力感につながるなどの効果が見られたことを発表し、2022年度は前田ケイ（1930-）の考案した「グループの持つ治療・教育的な力」等に視点を置いた分析を行い、「増野式サイコドラマ」の特徴と効果を明確にし、そのグループ運営について検証を行った。今回は、「増野式サイコドラマ」をプログラムに導入している他法人運営の地域活動支援センター『シンプルライフ』で参加者を対象としたヒアリング調査やアンケート調査を行い、「増野式サイコドラマ」の有効性を考える。

口頭発表Ⅳ

◇演題

養護教諭の現職教育におけるロールプレイングの意義に関する一考察

—ある養護教諭の主体的な実践変革プロセスを手がかりに—

◇発表者

留目宏美（上越教育大学）

◇発表要旨

学校の保健室に来室した児童生徒に対して、養護教諭が行う個別的なロールプレイングは、原則的に観客がいない中で、「養護教諭が監督と児童生徒（主役）の補助自我を兼ね」る（金子1992）。故に、養護教諭自身が自発性を最大限に作用させながら、その役割を創造的に統合することが求められる。しかし時に、養護教諭の内に不安や迷い、怖れを生起させる場合がある。そこで、児童Aとの関係性に否定的なイメージを抱いていた養護教諭B（教職大学院1年生）が2023年9月～12月までの間、定期的なロールプレイング及び日々のプロセスレコードによる省察を通して、児童Aとの関係性を主体的に変化させていったプロセスを発表する。養護教諭Bは、オープンなかかわりに徹し、適度な距離を掴み、状況を俯瞰することができるようになった等、自己を評価するまでに至った。以上より、定期的なロールプレイング及び日々のプロセスレコードによる省察は、実践を主体的に変革するプロセスを支える一助になったと考えられる。同時に、ロールプレイングの教育的な価値は、養護教諭の現職教育においても有用であることが示唆された。

口頭発表Ⅴ*

◇演題

オンラインで行うカウンセラートレーニングの試み

—ロールプレイを用いて—

◇発表者

田村耕祐（スマートキッズ株式会社）

◇発表要旨

本研究は、将来心理職を希望する者を対象とし、カウンセラーの役割と技法を提示して、ロールプレイの効果の違いを明らかにすることを目的とした研究である。具体的には、①カウンセラーのロールプレイ場面を見せてから傾聴訓練を行う群、②ロールプレイ場面を見せずに傾聴訓練を行う群の2つに分け、1回90分のセ

セッションを3回行い、両群を比較した。各セッションで、参加者に対し質問紙の回答を実施し、ロールプレイの体験内容と傾聴技法の習得感の度合いを測定した。t検定を行った結果、1群と2群の間で自己洞察・他者理解において有意な差が見られ、2群の方が1群よりも平均値が高かった。また各セッションでの群の差異を検討するために分散分析の実施や録画したロールプレイのやり取りをカウンセラー2名による評定での検討などを行った。これらを含めて、オンライン環境でのロールプレイを用いたカウンセラートレーニングについて考察していく。

口頭発表VI

◇演題

関係学を援用した中学校家庭科におけるロールプレイング研修の効果

◇発表者

鎌野育代（島根大学）

◇発表要旨

近年の家族形態の変化や、地域社会のつながりの希薄化を背景とした子どもを取り巻く様々な問題を受け、家庭科では、地域や家族とのかかわり方を工夫することを目標に掲げるなど、教科としての役割が見直されている。学習指導要領解説では、家族に関する学習について、ロールプレイングなどの学習活動を中心とすることが示されている。しかし、これまでの調査では、ロールプレイングを実施している学校は約半数ほどであり、その理由として「生徒がふざけることが不安」「まとめ方がわからない」といった教員の「指導への不安」が原因していることがわかっている。

そこで、令和6年8月末に、中学校家庭科の教諭を対象とした家族学習におけるロールプレイングの研修（25名参加）を行った。その研修による効果を明らかにする。

口頭発表VII*

◇発表者

堀弘子（NPO法人神奈川県メンタルヘルスサポート協会）

◇演題

自治体職員研修におけるサイコドラマ的手法導入の試み2

◇発表要旨

当該自治体において、新入職員対象「コミュニケーション研修」を行った。目的は①コミュニケーションスキルの向上②参加者同士の横の繋がりを作る、の2点。「サイコドラマ的手法」、ストレスに関する「講義」、先輩も参加する「グループトーク」の3部構成で実施した。「サイコドラマ的手法」では、「全員と挨拶」「ライン」「グループ分け」「嘘つき自己紹介」等のウォーミングアップ手法を用いた。質問紙の結果、アクションを用いた本研修の構成について「大変良かった・良かった」という回答がほぼ100%であり、「研究目的に沿っていた」「役にたったもの」については、「グループトーク」を評価したものも多かったが、「サイコドラマ的手法」を取り入れた事についてはかなり評価が高かった。「最初にアクションがあったおかげで楽しく受講できた」「普段やらない事をやれて話すきっかけになった」等の感想があり、コミュニケーション研修にサイコドラマ的手法を導入する有効性が示唆された。

口頭発表VIII

◇演題

古典的サイコドラマにおける「ウォーミングアップ段階」の検討

◇発表者

○鈴木克也（東京福祉大学）・大島朗生（東京福祉大学）・中西政人（第二調布学園）・飯野嘉浩（千葉工業大学）・南谷建太（さいたま市北部児童相談所）

◇発表要旨

本研究は、「古典的サイコドラマ」における「ウォーミングアップ段階」の概念を検討し、ディレクター養成課程において、より良い訓練の視座を提案することを目的とする。メンバーが十分にウォーミングアップされることで、主役として舞台上に上がる際の移行や、「ドラマ段階」での展開がスムーズになる。また、ウォーミングアップを通じて主役が自身のテーマに焦点が絞られていれば、ディレクターは落ち着いてドラマを展開できる。よって、ウォーミングアップ段階をある程度構成できれば、「古典的サイコドラマ」のディレクター養成に寄与することが期待できる。本研究では、文献研究の手法を用いて「古典的サイコドラマ」の「ウォーミングアップ段階」の目的や手順を整理する。そうして、「ウォーミングアップ段階」の手順や目的を明確にすることで、「古典的サイコドラマ」のディレクター養成課程において、ウォーミングアップを学ぶ指針となり得る一つの案を提示する。

口頭発表Ⅸ*

◇演題

オンラインで行うサイコドラマのウォーミングアップ段階の様式についての検討

◇発表者

前川知吉（埼玉県熊谷児童相談所）

◇発表要旨

オンラインで行うサイコドラマにおいて、効果的な適用の可能性を検討するために、オンラインのサイコドラマに適したウォーミングアップを明らかにすることを目的とする。そのため、ウォーミングアップ様式の違いが参加者や集団のウォーミングアップ体験にどのような影響を与えるかについて尺度を通して検討した。結果として、オンラインでは表現することの困難さがあるため、ウォーミングアップでも制約が生じることが明らかになった。次にオンラインならではの表現の困難さを軽減する一案として、「ウォーミングアップ段階であえて少し難しい課題を参加者に与える方が、オンライン上のドラマ段階で行う表現が円滑になる」ことの可能性を示す。発表当日はフロアの皆様とオンライン上で行う効果的なウォーミングアップ様式について、またオンライン上のウォーミングアップ段階で意識されていることについての意見交換を希望している。

4) ワークショップ発表（15：55～18：15）

ワークショップ発表Ⅰ*

◇演題

心はどれだけ私の味方？

—心の中の「妨害者」と「賢者」に気づくソシオドラマ—

◇発表者

武田麻紀子（京都芸術大学大学院）

◇発表要旨

発表者は国際コーチング連盟認定アソシエイト・コーチであり、大学院修士課程にてドラマセラピーの研究を行っています。

本ワークショップは「心の中の〈妨害者〉と〈賢者〉に気づくソシオドラマ」と題して、ソシオドラマを参加者の皆さんと創りながら、困難に直面した主人公がどのように〈賢者のパワーゲーム〉を行うことで、乗り越えるヒントを得ることができるのか探求します。〈賢者のパワーゲーム〉はシャザド・チャミン著『スタンフォード大学の超人気講座 実力を100%発揮する方法』を基にしており、人が元々持っている共感力、探求力、革新力、実行力を発揮できるよう刺激するものです。本ワークショップは昨年プレイバックシ

アター・ラボ主催ワークショップ・フェスティバルに向けて発表者が考案し、好評を得ました。コーチングの文脈の中で生まれた〈賢者のパワーゲーム〉ですが、心理劇の中でも効果的だと発表者は考えており、本大会ご参加の皆様にも体験いただきたく、ご紹介するものです。皆様のご意見を是非お聞かせください。

ワークショップ発表Ⅱ

◇演題

サイコドラマ

—危機にあってなお最高の世界を作り上げるため—

◇発表者

○前田潤（札幌サイコドラマ研究会・室蘭工業大学）・櫻井靖史（東京サイコドラマ協会）・宮崎良洋（医療法人勤誠会 米子病院）

◇発表要旨

2025年国際集団精神療法集団過程学会（International Association of Group Psychotherapy and Group Process：IAGP）が”Groups and Global Crises：Challenges for People、Organizations and Societies”というタイトルのもと札幌で開催されることになっている。本ワークショップ発表の発表代表者は、大会のタイトルを受けて”For the sake of creating the best world in the time of Global Crises”として台湾、オーストラリア、チュニジアでサイコドラマワークショップを実施してきた。さらに、日本心理劇学会でもワークショップ発表を実施し、心理劇の可能性について検討しようとするものである。

現実の世界では私たちは、最高の世界を作り上げたり、世界的危機をなんとかすることを想像することもせず、諦めてさえいるかもしれない。しかしサイコドラマの世界では何でもできる。サイコドラマを通じて、改めてこの危機に対する参加者の能動性と創造性を喚起することが、このワークショップ発表の目的である。この目的をもってワークショップ発表を実施し、サイコドラマの効果および可能性について発表のまとめを提示する。

ワークショップ発表Ⅲ

◇演題

“小さな英雄”の旅の物語

—自分らしい生き方を見つける旅としてのサイコドラマ—

◇発表者

中込ひろみ（PAL ラボ東京・宇都宮）

◇発表要旨

人間は物語を必要とする存在である。神話の英雄の物語には旅に出て内的成長を遂げ帰還するという世界共通のパターンがあるという。現代社会には神話のような誰もが共有できる大きな物語はなくなっているが、私達個人の中には”小さな英雄”の物語がある。サイコドラマではそれがよく象徴的に表現される。サイコドラマは内的成長による自己実現が最終目的であり、人生の困難を乗り越えて今に戻ってくる小さな英雄の旅である。そのプロセスは人生の物語の筋の通らない途切れた部分の真実を今に繋ぎ、理想の未来を創造し、内面的な成長を実感できるようにする旅である。そうして自分自身の物語を生きていると実感でき、日々の意味を見出すことができるなら、ザーカ・モレノがサイコドラマを「愛の革命」と言ったように、これからの社会や地球を変革していくような地球規模の神話を生み出す力を持つ存在になっていくだろう。本発表では「自分らしい生き方を見つける旅としてのサイコドラマ」について、「『小さな英雄』の旅の物語」を手掛かりに検討する。

ワークショップ発表Ⅳ*

◇演題

サイコドラマのディレクター訓練に関する試み

◇発表者

○大島朗生（東京福祉大学）・鈴木克也（東京福祉大学）・飯野嘉浩（千葉工業大学）・中西政人（第二調布学園）・南谷建太（さいたま市北部児童相談所）

◇発表要旨

サイコドラマでは、「シーンを創る」ということが大切になる。特にファーストシーンをどこにするかという選択は、セッションの展開そのものを決定する。ディレクターの主役に対するインタビューは、アセスメントを兼ねている。ディレクターは傾聴モードになりすぎないように留意し、主役にインタビューをしながら、ファーストシーンをどのように具体化するかを模索する。サイコドラマは通常のカウンセリングとは異なり、アクションの要素が強い。初心者のディレクターは“アセスメント”と“シーンを創ること”を自由に行き来することが難しいため、「シーンは常に複数想定できる」という可能性を忘れがちになる。今回、発表するディレクター訓練の方法は、「“インタビューアーのモード”と“プロデューサーのモード”を区別する」という試みである。この区別により、ディレクターはプロデューサーとしての機能に特化することができるため、ファーストシーンのイメージを描きやすくなると考えている。

ワークショップ発表Ⅴ*

◇演題

人生を豊かにする「増野式サイコドラマ」を体験する
—自由に表現することを楽しみ可能性を広げる「もう一つの地球」—

◇発表者

○柴田礼子（増野式サイコドラマ研究会）・井上清子（増野式サイコドラマ研究会）・河島京美（増野式サイコドラマ研究会）・都甲絢子（増野式サイコドラマ研究会）・豊田英子（増野式サイコドラマ研究会）・諸藤真美（増野式サイコドラマ研究会）

◇発表要旨

増野式サイコドラマ（以下、増野式）は、クライアント中心療法、森田療法などを基盤に「己の中に治る力があり、それを発揮させることが治癒につながる」と考え、問題の原因追及や解決にこだわらず、主に、楽しいこと、好きなことを表現しながら、自分自身の持っている良いところを再受容したり、自分を支えてくれている人、物、ペット等の動物や環境、出来事などを確認するドラマを行うことで、自分の生き方を探索していく（増野・増野、2024）。増野式は、安心できるグループ作りを重視する、問題解決にこだわらない、構成が決まっている、できるだけ多くの人が主役体験をする、観客がいない、イメージーションを用いてさまざまな疑似体験をする、歌やダンスを活用する、といった特徴がある。皆で増野式を楽しみ、参加者の皆様が輝くことを目指したい。

引用文献

増野肇・増野由美子(2024). サイコドラマをはじめよう—人生を豊かにする増野式サイコドラマ— 金剛出版

ワークショップ発表Ⅵ

◇演題

心理劇の専門家でない人が実践できるいじめ対策プログラム
—実践者の為のワークショップとプログラムの体験、振り返り—

◇発表者

○羽地朝和（株式会社プレイバック・シアター研究所）・岩橋由梨（アーツ ベースド ラボ）

◇発表要旨

演劇的手法の専門家ではない人が子どもに実施するいじめ対策プログラム「カエルワークショップ」の開発に取り組んでいます。専門家でない人が実施するのでシンプルな構成を目指しています。「カエルワークショップ」で大切にしているポイントはファシリテーターが想定した答えに誘導しないこと。そして目指しているのは、いじめに限らず、辛いことや困難な状況に自分なりに対応する術を子どもたちがみつけること。当日の前半は「カエルワークショップ」を実施するファシリテーターに体験して欲しい内容です。自身のいじめにまつわる体験を分かち合い、「いじめとは何か」「どういじめに対応するか」を考えます。ここでは自分のいじめにまつわる体験を扱うことをご理解ください。後半は子どもに提供するプログラムを体験します。ここでは自身のいじめの体験は扱いません。物語を使って困難な状況をどう乗り越えるかを考えます。プログラムについての多くの意見を期待しています。

ワークショップ発表Ⅶ*

◇演題

ACT 的要素を取り入れた構造的サイコドラマ

◇発表者

西川和真（医療法人社団心劇会 さっぽろ駅前クリニック）

◇発表要旨

認知行動療法の技法であるアクセプタンス&コミットメントセラピー（Acceptance & Commitment Therapy）の要素を取り入れたサイコドラマを実施します。ACT は体験の回避という行動パターンを止め、自分にとって大切な行動を試み、心理的柔軟性を高めることを目指す行動療法です。ACT は抑うつや不安への効果が期待されます。ACT では思考や感情から距離を置いて観察すること、「今、この瞬間」に注意を向けて自分の価値に沿った行動を取ることが重要です。ACT では様々なエクササイズ、メタファーを用いて、イメージアップを図ることでクライアントの理解と変容を促します。ACT とサイコドラマを組み合わせ、思考の外在化・可視化を行ったり、アクションを交えて体験することで ACT で得られる脱フュージョン、メタ認知的気づき等を促すことが期待できると考えます。構造についてはまだまだ検討中ですが皆様に体験して頂き、ご意見を頂ければと思います。

ワークショップ発表Ⅷ

◇演題

成人発達障害支援心理劇・心理教育マニュアルにおけるコンステレーション技法の心理劇の位置づけや取り組みについて

◇発表者

前田英樹（医療法人社団心劇会 さっぽろ駅前クリニック）

◇発表要旨

2021 年度の日本心理劇学会の研究助成により、成人発達障害者に向けた心理劇と心理教育を組み合わせたマニュアル（通称：PPMA）を策定し、現在はその効果検証を全国の医療機関で実践している最中である。今回は、コンステレーション技法の心理劇について PPMA 内での位置づけの説明をし、現在から始まり過去や将来の対人関係に焦点を当てた心理劇を安全に行うための取り組みや工夫について紹介やコンステレーション技法の体験を行う予定である。コンステレーション技法の心理劇は、初学者向けの構成された心理劇であり、従来の心理劇よりも短いトレーニングで臨床の場で提供できることが期待される。広く PPMA の実践が展開されるためにも特にまだコンステレーション技法の体験したことのない参加者と本ワークショップの体験を通してディスカッションを深めていければと思う。

ワークショップ発表区*

◇演題

スマートフォンやPCを用いたメタバース空間でのサイコドラマ体験

◇発表者

○横山太範（医療法人社団心劇会 さっぽろ駅前クリニック）・松村雅代（株式会社BiPSEE）・小松尚平（株式会社BiPSEE）・澤田欣吾（東京大学 相談支援研究開発センター実践開発部門）・筒井一希（東京福祉大学大学院 心理学研究科 臨床心理学専攻）・古関 陽教（医療法人社団心劇会 さっぽろ駅前クリニック）・渡邊真生（医療法人社団心劇会 さっぽろ駅前クリニック）

◇発表概要

サイコドラマはアクションや身体的接触を重視した対面で行う集団精神療法であるが、新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけに、Zoom やVR ゴーグルを利用した実施検討や研究がされている。没入感やその場にいる感覚を味わうことが出来る VR ゴーグルを用いたサイコドラマは有効であると考えられるが、VR ゴーグル等の機材は高価であることなどから、普及はこれからという状況である。スマホやタブレットで入ることのできるメタバース空間は、アクションや没入感の面において、対面やVR ゴーグルと比較すると劣るが、音の方向性や視点は再現されるため、Zoom などのビデオチャットよりもその場にいる感覚を味わうことが出来ると考えられる。ワークショップでは、①スマートフォンやタブレットとイヤホンを使用したメタバース空間と②VR ゴーグルを使用したメタバース空間の両方を体験していただき、ビデオチャットと①の相違点、①と②の相違点を整理しながら、VR ゴーグルを使用できない環境での支援の可能性について検討したい。

5) 懇親会（18:30～20:00）

◇司会者

牧裕夫（作新学院大学）

櫻井靖史（東京サイコドラマ協会）

◇大会長からのコメント

2023年5月に、新型コロナウイルス感染症の法律上の分類、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられたのを受け、また節目の大会であることを考慮して、第30回大会では久々に、懇親会を開催いたします。

◇感染症に配慮して比較的短時間で実施いたしますが、お料理やお飲み物は十分に準備いたします。

◇ワークショップ発表の会場と同じ建物の2階で開催いたしますので、ちょっと喉をうるおして帰る感覚で、ぜひご参加ください。第30回を迎えられたことを一緒に祝いましょう。

1) 大会長講演 (10:00~11:00)

◇講演者

安藤嘉奈子 (共立女子大学)

◇演題

心理劇の深化と新化、そして真価

◇講演者からのコメント

心理劇は、主役をはじめとする参加者の、役割認知 (role perception)、役割実現 (role enactment)、役割期待 (role expectation) の仕組みを解き明かそうとする心理療法として捉えられます。心理劇の真価が発揮されることは、心理劇の場で参加者、特に主役が、以下の内容に関する気づきを得て、適切で自分らしい役割を作り出せるようになることであると考えられます。①ある一つの役割をどのように認知し定義するか (役割認知)、②その役割をどのように具現化するか (役割実現)、③自分の望む役割と社会から期待される役割との兼ね合いをどのように調整するか (役割期待) (安藤、2024)。言葉遊びのようにみえるかもしれませんが、心理劇の深化 (深く掘り下げる) は心理劇の研修と関連し、心理劇の新化 (新規に挑戦すること) は、心理劇の研究と関連していると思われます。本講演では、心理劇が一層の真価を発揮するための深化・新化の方向性について、考えてゆきます。

2) 総会 (11:10~12:10)

3) 特別講演 (13:00~14:00)

◇講演者

平田オリザ (劇作家・演出家、芸術文化観光専門職大学学長)

◇演題

わかりあえないことから

◇講演者略歴

- ・ 劇作家・演出家。芸術文化観光専門職大学学長。
- ・ 劇団「青年団」主宰。江原河畔劇場 芸術総監督。
- ・ 1962年東京生まれ。
- ・ 1995年『東京ノート』で第39回岸田國土戯曲賞。
- ・ 2019年『日本文学盛衰史』で第22回鶴屋南北戯曲賞を受賞。
- ・ 2011年フランス文化通信省より芸術文化勲章シュヴァリエ受勲。
- ・ 演劇の手法を用いた多様性理解・コミュニケーション教育にも取り組み、各地の自治体・NPOとも連携してワークショップを実施している。
- ・ 2019年より豊岡市日高町に移住し「江原河畔劇場」を設立、併設の「たじま児童劇団」では中高生の部

を指導している。豊岡市芸術文化参与、豊岡演劇祭フェスティバル・ディレクターもつとめる。

◇講演者からのコメント

この講演では、心理劇学について、コミュニケーションの視点から考えていきたいと思います。なぜ私たちはわかりあえないのか、わかりあうための方法はどこにあるのか。お互いの違いを認め、わかりあえないというところから、多文化共生社会のコミュニケーションを考えていきたいと思います。

4) シンポジウム & 心理劇 (14:10~16:30)

第I部 シンポジウム <心理劇の成熟と新しい展望>

◇企画者

安藤嘉奈子 (共立女子大学)

◇企画者からのコメント

日本心理劇学会の大会は、第30回を迎えました。組織のライフサイクルは、誕生・成長・成熟・衰退の4段階を経ると捉えられています (今口、2007)。創設から30年前後の時点は、組織にとって成熟から衰退に向かうか、再生・リボーンに向かうかの岐路に当たると考えられます (安藤、2024)。そこで、本学会のこれまでの成熟の過程を振り返ったうえで、新たな30年、さらには50年、100年の歴史を刻んでゆくために必要な事柄について考えることを中心的な目的として、シンポジウムを企画しました。

最初にご登壇いただくのは、本学会を長年にわたって牽引してこられた藤堂宗継先生です。心理劇学会の立ち上げからこれまでの過程をお話しいたします。サイコドラマの研究を推進しておられる大島朗生先生には、心理劇の研究の今後の方向性についてお話しいたします。心理劇の方法・技法に造詣が深く、全体を俯瞰的かつ温かく理解しておられる岡嶋一郎先生には、心理劇の方法・技法の発展可能性についてお話しいたします。最後にご登壇いただくのは、本学会理事長の横山太範先生です。学会の今後の方向性についてお話しいたします。

◇登壇者1

藤堂宗継 (雄心会 山崎病院)

◇登壇者からのコメント

心理劇学会は1995年12月2日、日本女子大学桜楓会館にて設立総会と第1回大会が開催された。日本心理劇学会設立趣意書によれば、いじめ、児童虐待、非行、犯罪の増加など社会病理が露呈されている。このような時こそ社会の中で、集団の中で創造性と自発性を求められる時代である。医療、矯正、福祉、教育の分野で心理劇が広がっている。心理劇に関わるものが協力して、技術を高め社会から求められている責任を負う義務がある。そのために学会を結成する、というものである。30年余り経った現在でもうなづくことが出来る内容と言える。この設立に関しては心理劇連合会が10年に渡り活動している。これには日本の心理劇を牽引してきた団体と先輩方がつながっている、その働きがあってこそ心理劇学会として結集できたのだと思う。そして、心理劇に大きな刺激を与えた Zerka Moreno の初来日のワークショップでのモレノショックが、その後の研修や方向性に大きく影響していると考えられる。そう考えると、それぞれのグループが持つ理論と実践の継続、それを基に他のグループとの交流がまた刺激になることが発展につながると言えるだろう。このことを通して学会の成熟過程を見てみたい。

◇登壇者 2

大島朗生（東京福祉大学）

◇登壇者からのコメント

心理劇に関する研究というものをどのように進めていけばよいのでしょうか。一般に、心理学の研究法というと、観察法、実験法、質問紙調査法、面接法の4つを挙げることが多いと思います。量的研究法と質的研究法という分類も注目されています。臨床心理学に特徴的な研究法である、事例研究法を挙げることもできるでしょう。

心理劇の研究が難しい理由は、心理劇という技法が集団を対象とするため、諸条件を統制することが困難な点にあると考えています。また、研究倫理も大切になります。集団を対象とする心理劇は、研究倫理という観点から考えても不確定要素が多く存在します。それゆえ、実践に注力するという状況が生じやすくなっているのではないのでしょうか。

「心理劇とはこのようなものである」ということを端的に示すのが研究です。心理劇をまだよく知らない人に対して、「心理劇の魅力」を伝える機能も重要になるでしょう。心理劇の発展には、実践と研究を交互に丁寧積み重ねていく必要があると考えています。

◇登壇者 3

岡嶋一郎（西九州大学）

◇登壇者からのコメント

心理劇に限らず、あらゆる発明は、開発者のもつ、課題に対する意識や探求心と、それまでの経験とが結合することによって出現する。よって、本テーマについても、「課題の探求」と「経験の蓄積」という2点から考えてみることにする。1点目の、課題の探求という点では、現代社会のもたらす様々な課題に対して、また、心理劇の5要素が整っていない状況の中で、会員は学んだことをどのように活かすことができるのかという課題が挙げられる。2点目の、経験の蓄積という点では、当学会が、会員にどのように心理劇経験の蓄積を支援することができるのかという課題が挙げられる。当日は、これらの課題に対する筆者のまとめや経験について話題提供していく予定であるが、当学会が、心理劇の多様な立場を包括し、これらを幅広く体験・研修することができる体制や資格認定制度、研究発表の場を有していることは強みになると考えている。

◇登壇者 4

横山太範（医療法人社団心劇会 さっぽろ駅前クリニック）

◇登壇者からのコメント

当学会において今後の発展が期待できるテーマを列举してみた。1) メタバースやAIなどの新しいテクノロジーとの融合、2) 成人発達障害や複雑性PTSDなど新しい課題への適応、3) マニュアル化による実践者の増加、4) 研究体制や後進育成体制の強化、5) 演劇教育・道徳教育、6) 国際化、などが上げられる。

中でも、メタバース空間での実践やAIなど新しいテクノロジーの実装は発展のために不可欠だ。特に、メタバースに関しては、二次元的なZoomなどの遠隔会議システムでは不可能だった、リアルな3次元空間に匹敵する体験が可能で、単なるおしゃべり療法ではないアクションを用いる心理劇の特性が存分に発揮されることであろう。医療の領域では治療法が確立されていない疾患で心理劇への期待が高まってきている。一方、実践者を増やすためにはマニュアル化も必要と考える。研究倫理審査委員会などの研究支援体制の整備や大学等でのポスト獲得も重要となる。

※登壇順

第Ⅱ部 心理劇 <みんな、舞台のうえで語ろう>

◇監督

安藤嘉奈子（共立女子大学）

◇補助自我

岩城衆子（文京区児童相談所開設準備室）

◇監督からのコメント

楽しい心理劇を行いたいと考えています。なるべくたくさんの方々に、舞台上がっていただき、気持ちを語っていただこうと思っています。

5) 表彰式・閉会式（16：40～17：10）

◇プレゼンター

川幡政道（横浜市立大学）

吉川晴美（東京家政学院大学）

◇大会長からのコメント

華やかな表彰式を開催したいので、会員の皆さまには、継続発表賞のご申請をよろしくお願いいたします。以下に掲載している QR コードより申し込みフォームにアクセスし、必要事項を入力後、送信ボタンを押してください。最新のご発表でも、学会発足当時のご発表でも、エントリー可能ですので、よろしくお願いいたします（入力時間：5分程度。〆切：10月31日）。



2 参加申込みについて（大会・懇親会）

◇事前申し込みについては、以下に掲載している URL、または QR コードより申込フォームにアクセスし、必要事項を入力後、送信ボタンを押して 2024 年 11 月 27 日（水）までにお申し込みください。

2024年10月1日（火）～11月27日（水）

<https://shinrigeki30.com/%e5%8f%82%e5%8a%a0%e7%94%b3%e3%81%97%e8%be%bc%e3%81%bf/>



◇事前申し込みと当日参加では、大会参加費・懇親会費の金額が異なります。
◇非会員・学生は当日参加の形で、1日のみ参加することも可能です。

1) 大会参加費

<会員・準会員>	◇事前申し込み：7,000円	◇当日参加：8,000円
<非会員>	◇事前申し込み：8,000円	◇当日参加（2日間）：9,000円
	◇当日参加（1日のみ）：5,000円	
<学生（学部・修士）>	◇事前申し込み：5,000円	◇当日参加（2日間）：6,000円
	◇当日参加（1日のみ）：3,000円	

2) 懇親会参加費

<会員・準会員>	◇事前申し込み：4,000円	◇当日参加：5,000円
<非会員>	◇事前申し込み：5,000円	◇当日参加：6,000円
<学生（学部・修士）>	◇事前申し込み：2,000円	◇当日参加：3,000円

3) 振り込み口座

振込先：ゆうちょ銀行

口座：総合口座 記号19010 番号58442531

口座名：日本心理劇学会第30回大会運営委員会

◇他の金融機関からゆうちょ銀行へ振り込む場合には、以下のようになります。
店名：九〇八 口座番号：5844253

3 留意事項

1) 大会企画ワークショップについて

- ・ワークショップⅢは、心理劇の舞台のある教室で実施いたします。大変申し訳ないのですが、狭い部屋なので、先着 10 名といたします。予約がいっぱいになった場合には、ご希望にそうことはできませんので、ご了解いただきますようお願いいたします。ワークショップⅠ・Ⅱについては、人数制限はありません。

2) ワークショップ発表について

- ・先着順で第 1 希望のコースに入れさせていただきます。全体の申し込み状況によっては、お申込み順が遅くなるほど、第 2 希望以降のコースに入れさせていただく可能性が出てまいります。申し訳ありませんが、どうかご理解いただきますようお願いいたします。
- ・できれば参加人数の極端な偏りがないように配慮したいので、参加申し込みの際には、第 4 希望まで記入していただきますよう、お願いいたします。

3) 参加費・懇親会費について

- ・大会参加費・懇親会費の入金は、参加申し込みを行ってから 1 週間以内にお願いたします。
- ・振込手数料については、ご自身でご負担ください。
- ・一度お支払いいただいた大会参加費・懇親参加費は、予期せぬ事情で第 30 回大会が中止となった場合を除いて返金できませんので、ご了解ください。
- ・釣り銭の準備は十分ではありません。当日参加の場合には、お釣りがいらないようにご協力ください。

4) クロークについて

- ・大会当日には、クロークが設置されておりません。お荷物の管理はご自身でお願いいたします。貴重品は必ず携帯していただきますようお願いいたします。
- ・1 日目の口頭発表の会場は大きな部屋なので、隣の席に防寒具を置いていただくことが可能です。大会企画ワークショップⅠ・Ⅱ、およびワークショップ発表では、後方に寄せた机に防寒具を置いていただくことが可能です。
- ・2 日目の会場である共立講堂には、席の余裕が十分にありますので、隣の席に防寒具を置いていただくことが可能です。

5) 口頭発表・ワークショップ発表について

- ・口頭発表については、1 演題につき 20 分（発表 15 分、質疑応答 5 分）、および全体討論（15 分）の時間を確保しております。
- ・ワークショップ発表については、セッション（120 分）とその後の質疑応答（20 分）の時間を確保しております。
- ・発表者は日本心理劇学会倫理綱領に基づいて発表を行ってください。また発表の最初に、利益相反の有無について開示してください。
- ・大会当日に実施したワークショップ発表について論文化を考えている発表者は、参加者の同意をとっていただきますよう、お願いいたします。ワークショップ発表で実施したのと同じ内容であっても、他の場所で実施したセッションを論文化する場合には、この限りではありません。
- ・座長は、継続発表賞を希望する発表者の審査をお願いいたします。
- ・発表者は当日、発表開始時刻の 40 分前から、会場に入室可能です。

6) 懇親会について

- ・感染症に配慮して 90 分で実施いたします。低料金で設定しておりますが、会員の皆さまにご満足いただけるように、充実したメニューと飲み物を準備する予定です。

7) その他

- ・合間の休憩時間を 10 分として、またブレイクタイム（昼食時間）を 50 分として設定しております。時間厳守へのご協力をどうかよろしくお願いいたします。
- ・宿泊・食事などのご手配はご自分でお願いいたします。神保町駅界隈の飲食店は、土曜日は観光客で混雑し、日曜日は休業になるところも多いため、ご注意ください。
- ・1 日目・2 日目ともに、会場内に休憩室を設けます。
- ・2 日目は休憩室を喫食スペースとしますので（本館 4 階食堂）、よろしければお弁当をご持参いただき、そこで召し上がってください（食堂自体は営業しておりませんので、ご注意ください）。
- ・感染症の拡大や災害、その他の影響により、開催方法やプログラム内容に変更が生じる可能性があります、なにとぞご理解ください。

4 問い合わせ先

大会に関するお問い合わせは、メールにてお願いいたします。すぐに返信できないこともありますので、ご注意ください。連絡先は以下のとおりです。

日本心理劇学会第 30 回大会事務局
共立女子大学 教職課程研究室 C 内
事務局 e-mail : jpa30geki@gmail.com

編集後記

第 2 号通信の執筆と編集は、第 1 号通信を 6 月に送信した直後から始めました。まずは最初のページや後半の留意事項などを書きはじめるとともに、講師・シンポジスト・発表者の先生方に原稿を依頼しました。さらに先生方の原稿を頂戴したところで割り付けを始め、気づくと 19 ページになっていました。原稿を寄せてくださった先生方には、心から御礼申し上げます。研究倫理に関する相談にのってくださった本学会常任理事の山登敬之先生にも感謝申し上げます。また、第 2 号通信やウェブページの参加申し込みフォームに関して助言をしてくれた大会運営委員の皆さまにも、「有難う」の気持ちを伝えたいと思います。

第 2 号通信を作成するにあたり、最も苦労したのは時間配分でした。1 日半の大会日程の中で、パズルを埋めるかのようにスケジュール調整を行うことはなかなか難しく、過去の大会長の皆さまも苦労なさったであろうと拝察されます。過去の大会のスケジュールを確認したところ、合間の休憩を 10 分とした大会、15 分とした大会などがありました。ブレイクタイムについては、50 分とした大会、60 分とした大会、設定しなかった大会などがありました。検討の結果、今回は発表時間を十分に確保することを優先させていただきました。

さらに現在、抄録の執筆と会場の教室予約の調整などを同時進行で行っておりますが、6～7 割程度完了したので、「これで何とか大会を開催できそうだなあ。あともう少し！」と安堵しております。引き続き頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします（安藤嘉奈子）。